
仮面ライダーディケイド～仮面ライダーWの世界～

剣崎シンジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド〜仮面ライダーWの世界〜

【Nコード】

N9426Z

【作者名】

剣崎シンジ

【あらすじ】

オーズの世界を通りすがった門矢士は、Wの世界を訪れる。

風の街、風都を守る1人の男……左嶋ショウタロウ。

そして風都を襲う組織の影……！

世界の破壊者ディケイド……幾つもの世界を巡り、その瞳は何を見る……？

（この作品は『仮面ライダーディケイド〜仮面ライダーオーズの世界』の続編ともいえる作品ですが、オーズの世界を読まなくともお楽しみいただけます）

初見のW／今度は風の街（前書き）

この作品は、『仮面ライダーディケイド』『仮面ライダーオーズの世界』の続編ともいえる作品ですが、オーズの世界を読まなくともお楽しみいただけます

初見のW / 今度は風の街

「ここが次の世界だな」

俺、門矢士はオーズの世界を通りすがった後、風車が数多く回る街に降り立った。

写真館からはなつみかん……もとい光夏海と小野寺ユウスケも街に出てくる……のはいいのだが、なぜかテンションが上がっている。

「見てください！風車がこんなに！」

「おおー！こんなの初めて見た！」

「……風車でそこまではしゃぐってお前ら子供か？」

さすがに信じられん……

だが文句を言いたげにこつちを向いたなつみかんは不思議な顔で俺に、

「あれ？土くんの格好……最初に私たちがいた世界と同じじゃないですか？」

そう言われて自分の格好を見ると、確かにそうだった。

そしてもう1つ違和感がある。

何かが変なんだがな……

「なにっ！？」

「うわっ！？なんだよ土！？」

その違和感に気づいた俺は思わず叫んでいた。

それにユウスケが反応していたがこつちは無視。

なぜだ……！？
なぜ……、

「カメラがないんだ……！？」

あ、となつみかんとユウスケが声を上げる。

……どこだ！？

「写真館に忘れてきたとかですか……？」

「……見てくるから待つてろ！」

俺は急いで写真館のドアを開け、様々な場所を見る。

さつきまで朝食を食べていた机の上。

その机の下。

6本のメモリが描かれた背景ロールの裏。

引き出しの中。

【10分経過】

「どこにもない……！？」

俺は写真館の床に崩れ落ちていた。

なぜだ……どこにあるんだ……！

その時様子を見にきたのか、なつみかんが写真館のドアを開けて俺に声をかけた。

「土くん……？ありましたか……？」

「……どこにもない」

そうですか……と言ってなつみかんは、

「……とりあえずこの世界を回ってみませんか？役割を終えたら帰ってくるかもしれない……」

……それしか、ないか。

俺はしょうがなく立ち上がり写真館を出た。

「にしてもここはなんの世界だ？」

「……確か背景ロールにはカラフルなメモリが描いてありましたけど……」

俺達はしばらく街をうろついていたが、わかったことが何個もある。まずこの街には仮面ライダーのことは広く知られている。

あとはうまい名物が多い。

街を歩くついでに様々な店で何品か料理を食べているが、ハズレが少ない。

そして今の食べ歩きしているのだ。

特にユウスケなんかさつきから『風都焼き』というたこ焼きのようなものに夢中になっている。

「……ユウスケ、そんなにそのたこ焼きうまいか？」

「土！これたこ焼きじゃないから！風都焼きだよ！」

「なにが違うんだよ！？」

「……そもそもこれ甘いんだよな！。でも甘すぎなくてパクパクいける感じ？」

……訂正。

たこ焼きじゃない小型のまんじゅうだった。

そしてそれをユウスケから強奪しようか考えていたその時、別の手がユウスケから風都焼きを強奪していた。

「あっ!!?」

「うーん、なかなかおいしいね、これ」

そう言つてウインクしてきたのは、海東大樹……こそ泥だった。
俺はジト目で海東を見据え、

「……今度はなにを盗みにきたんだ？」

「今は言わないでよくよ」

「ふん……せいぜい俺達の邪魔はするなよ？」

「僕はお宝が手に入ればいい。その障害になるなら……わからないよ」

ちっ……。

こいつはこいつ奴だったな……。

俺は一度海東に対する敵意と呆れを抑え、少し気になったことを聞いていた。

「海東。そういえばお前、オーズの世界では会わなかったな」

「オーズの世界？君達も行ったのかい？」

「……ってことは海東、お前も……」

「お宝は盗れたからね 紫のメダルをワンセット 確か……竜ヶ崎シンゴってヤツから貰ったよ」

へえ……。

色々ツッコミ所はあるが、聞いても恐らく無駄だろう。
それよりも……、

「ユウスケ。お前の風都焼きはどこだ？」

「え？ここにあるけど……ってない！？まさか海東……！？」

「いや、僕は一個しか盗ってないよ。犯人は……あれじゃないのかい？」

そう言つて海東は少し遠くの場所を指差す。

そつちに顔を向けると、そこには……、

『もつと俺に食い物を寄越せえええ！！』

と言っている恐竜のような怪人がいた。

それを見てユウスケは変身しようとするが、俺が止めておく。

「へんし……」

「止めておけ」

「なっ……土！？」

「ほら来たぞ。……この世界の仮面ライダーが」

その瞬間怪人に何発かの光弾が様々な角度から当たり怪人は地に伏せた。

そしてそこに現れたのは、

『ぐあああ！？』

「……大体わかった。この世界は……」

半身が黄色で半身が青、ベルトのドライバーにはメモリが2本で左手に銃を携えている仮面ライダー！。

その名も……、

『「さあ、お前の罪を数えろ！」』

「Wの世界だ」

仮面ライダー、W。

Wは次々と光弾をドーパントに放ちつつ距離を詰め、

『メモリ替えるよ?』

「おう!」

『ヒート!メタル!』

「はあっ!」

メモリを替えて半身が赤、もう半身が銀のヒートメタルになり、銀のスティック、メタルシャフトでドーパントをメッタ打ちにする。

『シヨウタロウ、検索が終わった』

「それであいつは?」

『ティーレックスドーパントだ。突進と顎の力に気を付けねばなんとかなる』

「よし、じゃあ距離を取るか。俺の方、メモリ替えるわ」

『トリガー!』

『了解』

『ヒート!トリガー!』

Wはバックステップで距離を取りつつハーフチェンジを行い、半身を銀から青に変えてヒートトリガーとなりティーレックスドーパントを撃ち抜いた。

『ぐ、おおお！！』

「さすがの威力だな……」

『……ルナの方が使いやすい……』

「文句言つな！……そろそろ決めるか」

そしてWはドライバーから青いメモリ、トリガーメモリを抜き取り、手元の銃、トリガーマグナムにメモリを装填し、

『トリガー！マキシマムドライブ！』

『「トリガーエクスプロージョン！！」』

『ぐおおああ！！！！』

赤い光線を放った！

それはティーレックスドーパントに直撃し、メモリがその人間から飛び出し砕ける。

『もういいかい？シヨウタロウ？』

「……ああ。しばらく寝てる」

そしてWは変身を解除、黒い帽子を被った優男の姿になりバイクで去っていった。

俺達はその姿を見送り、ユウスケはポツリと呟く。

「……なんか独り言多くなかった？」

「……それは俺も気になった……」

「あれは独り言じゃない。彼らは……2人で1人の仮面ライダー、
ってヤツさ」

海東がそんなことを言う。

2人で1人って……意味がわからん。

ユウスケはそろそろ頭の許容量が限界なのか、

「2人で1人……？あれって2人だったの！？まさか合体！？」

なんてことを叫んでいた。

そんなわけないだろ……バカか？

だが海東は、

「ある意味では、そうだね」

「『ええええ！！？』『』」

「オレは冗談のつもりで言ったのに……」

……合体……？

腕とかが取れてくっつき直す……のか？

「今は悩んでるといーさ、あとでわかるだろうから」

そう言って、海東はどこかへ歩いていった。

初見のW / 今度は風の街（後書き）

『Wの世界』キタあー！！

読んでいただいてありがとうございます
剣崎シンジです！

この話はネガの世界の前なので、ケータツチはありません。悪し
からず。

次回は……W対ディケイド、までやれたらいいなあ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9426z/>

仮面ライダーディケイド～仮面ライダーWの世界～

2011年12月29日14時46分発行